

私と国有林

「瀬波海岸赤松林を昔の姿に」

村上市瀬波地区区長会 会長 高橋 政之



瀬波海岸赤松林



挨拶する高橋会長



区長会と村上中生での除草活動

翌年、平成16年度は瀬波小学校創立130周年を迎えて、学校長より3月に卒業する生徒に卒業記念と松林の再生に協力したいと植栽の申し入れがあり、村上支署の計らいで59名の卒業生により150本の赤松を記念植樹

新潟県の最北端に位置する瀬波地区は、南は瀬波温泉から、北は鮭の人工孵化で有名な三面川河口まで、海岸線に平行に続いている赤松林の防風林があります。この松林は瀬波集落の重要な役割を担っており、吹き付ける季節風とこれに伴い飛散する砂を防ぎ住人の生活を守っています。

その後、幾多の先人の努力により瀬波浜山海岸林が形成されました。明治の後期(1908年)瀬波浜山海岸林は「防風保安林」に指定され、瀬波集落から瀬波温泉まで海岸線に平行に林帯300m、延長2.2km以上に及ぶ防風林が造成されました。昭和50年頃までは勇壮な赤松林が続いていたものです。当時子供の頃は、春は小鳥のさえずりを聞きながら松林を駆け回り、四季折々の遊びで楽しんでいただけでもありました。

しかし、昭和50年以降、松くい虫の被害が見え始めると徐々に赤松が枯れ始め、昭和61年頃からは被害が急速に拡大し、当時の村上営林署では被害防止に努めたものの追いつかず、その被害は本数約5000本にも及んだそうです。保安林機能も年々衰退し、赤松林は一変してしまいました。村上営林署では、昭和50年代から被害木の伐倒薬剤駆除に努めながら松の植栽にも努め、平成14年からは、保安林整備促進事業として森林整備に本格的に着手し、植栽により再生の方向に進んでいます。この間、各団体や市民ボランティアによる活動協力も始まり、平成15年6月には、地元瀬波地区区長会の声かけで「大切な財産である浜山を昔の姿に復活させよう」との呼びかけに約150人が参加し、ニセアカシヤの伐採、ヤダケの刈払い、ゴミ拾い等の森林整備に協力し汗を流しました。

それが出来ました。それ以降毎年恒例となり、記念植樹も今年で9年目になりました。この間、地域の自然環境保全のため、瀬波地区区長会と県立村上中等教育学校の生徒による植栽箇所除草作業も毎年続けており、赤松も順調に生育しています。来年は小学校の卒業記念植樹も10年目を迎える記念すべき年になります。9年間この事業に携われたことに喜びを感じます。保安林整備促進事業と森林整備にご協力頂いた大勢の方に感謝し、この素晴らしい自然公園にも指定されている瀬波海岸赤松林が30年後、50年後には昔の姿に甦ることを願いながら、下越森林管理署村上支署の一層の努力をお願いし、今後も瀬波海岸赤松林の保全活動に協力していきたいと思っております。



瀬波小卒業記念植樹開会式